



**MIRAI SERVICE**<sup>®</sup>  
Future Service Laboratory

# ICTを活用した学校教育に対する 家庭での取り組みに関するアンケート調査

～コロナ禍で進む学校教育のデジタル化に各家庭はどう対応しているか～

2020年11月26日  
ユニアデックス株式会社  
未来サービス研究所

 **UNIADDEX**

この資料には、ユニアデックス株式会社が保有する秘密情報が含まれています。利用、保管等の取り扱いにあたっては、十分にご注意願います。また、この資料に含まれる情報は、ユニアデックス株式会社の資産であり、他の目的に利用することはできません。



# 本調査の目的

- 新型コロナウイルスの影響により今年の3月から5月にかけて多くの学校が休校措置をとるなか、緊急手段として家庭内でPCやタブレットを用いた学習動画の視聴や、学校が配信するオンライン授業の受講などICTを活用した学校教育の取り組みがなされました。
- 文部科学省が推進するGIGAスクール構想や学校教育のデジタル化に向けた各種規制の緩和、デジタル人材強化などの動きが加速しています。将来は学校内だけではなく、家庭内においてもデジタル教材やオンライン授業を活用し、学校教育と連動した学習をする機会が増加すると予想されます。
- ユニアデックス株式会社未来サービス研究所では、小学生・中学生の保護者を対象としたWebアンケートを実施し、家庭内でのICTを用いた学習の実態と保護者の意識について調査しました。

# 調査概要

調査内容	新型コロナウイルスの影響による休校期間中および現在における、家庭でのICTを用いた学校教育の実施状況 ICTを用いた家庭での学校教育に対する保護者の意識
調査手法	調査会社のモニターを用いたWeb調査
調査期間	2020年9月16日～9月20日
調査対象者	新型コロナウイルスの影響による休校期間中に家庭でICTを使った学習をした、または現在学習している小学生・中学生の保護者1,091名 ※塾や習い事など学校教育以外のICT利用は除外して質問  【対象者詳細】 関東・中部・近畿地方に在住する30～50歳代男女 男性（父親）478名、女性（母親）613名 小学生の保護者764名、中学生の保護者327名

## 調査結果サマリ①

- ICTを用いた学習を家庭で行う頻度は、小学生・中学生（以下小・中と表記）とともに休校期間中は約半数が「週に4～5回以上」であったが、休校期間終了後は「実施していない」が約半数に逆転する。
- ICTを用いた実施経験のある学習内容は小・中ともにデジタルコンテンツの教材が最も多いが、学校ごとに特徴の違いも見られる。ICTの学習ツールでは、小・中ともにZoomの利用率が最も高い。
- 学習デバイスは、小・中ともにPCとタブレットがそれぞれ4割程度。デバイスの所有者は小学生で「保護者」が多いものの中学生になると「子ども自身」が増える。学校が支給するデバイスの利用割合は小・中ともに低い。
- ICTを用いた学習を実施するにあたり、新しくPCやタブレットを購入した家庭は小・中ともに約2割。とくに小学生では、イヤホン等の付属物やプリンターの購入率も高く、ICT環境の整備が家庭において負担になったと推測される。

## 調査結果サマリ②

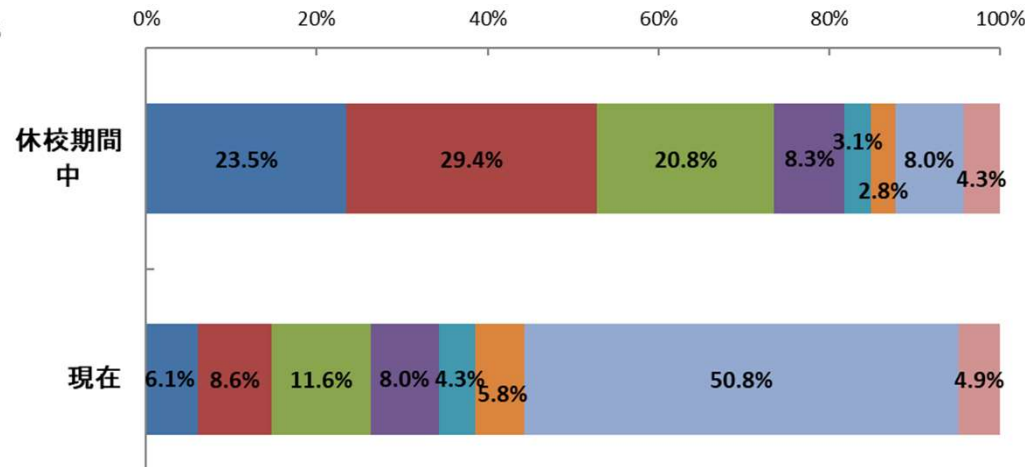
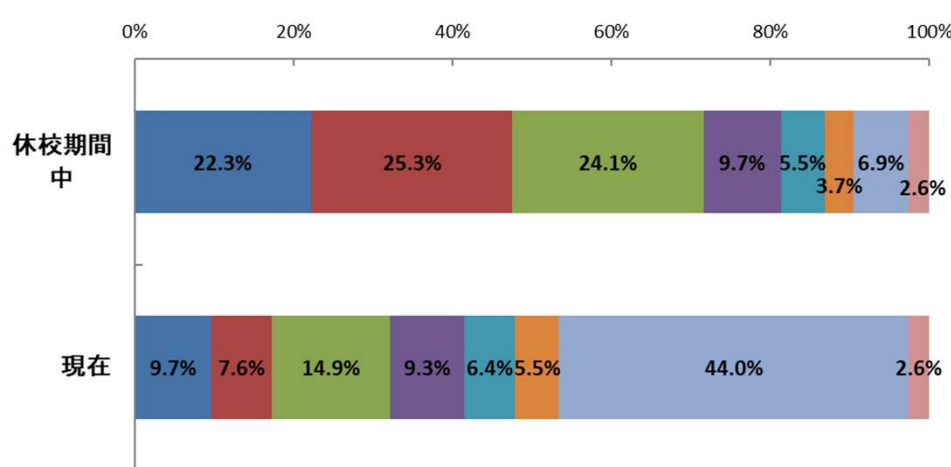
- 学習場所は小・中ともにリビングの割合が最も高いが、中学生になると子ども部屋の比率も増加する。小学生は母親と一緒に学習する傾向にあるが、中学生は子どもだけで学習している。子どもの集中力が持続する学習時間は、「30分未満」が小学生で4割強となった。
- 子どもがICTを用いた学習をするさい保護者が実施していることを「学習環境」「学習内容」「ICT支援」の3分野から質問すると、全体的に小学生の保護者の実施率が高い結果となった。また小・中を問わず父親と母親で傾向に違いが見られ、母親は「学習環境」や「学習内容」にかかわる値が高いが、「ICT支援」になると父親と母親の値が同等になるか、父親が逆転していた。
- ICTを用いた学習に対する意見や要望では、学校に対しては双方向型授業、デジタル教材、個別指導など学習方法や内容を充実させることに対する要望が小・中ともに高い。また小学生の母親で「子どもだけで学習するのは難しい（親が付き添う必要がある）」の値が高く、家庭で子どもの勉強を見ることが、とくに小学生の子を持つ母親には負担になっていると推測される。

# 1 ICTを用いた学習を家庭で行う頻度

- ▶ 新型コロナウイルスによる休校期間中（2020年3～5月）に「ほぼ毎日」「週に4～5回」ICTを用いた学習をおこなっていた割合は小学生47.6%、中学生52.9%と半数近くを占めた。しかし休校期間終了後は「実施していない」がそれぞれ44%、50.8%と逆転している。

小学生（N=764）

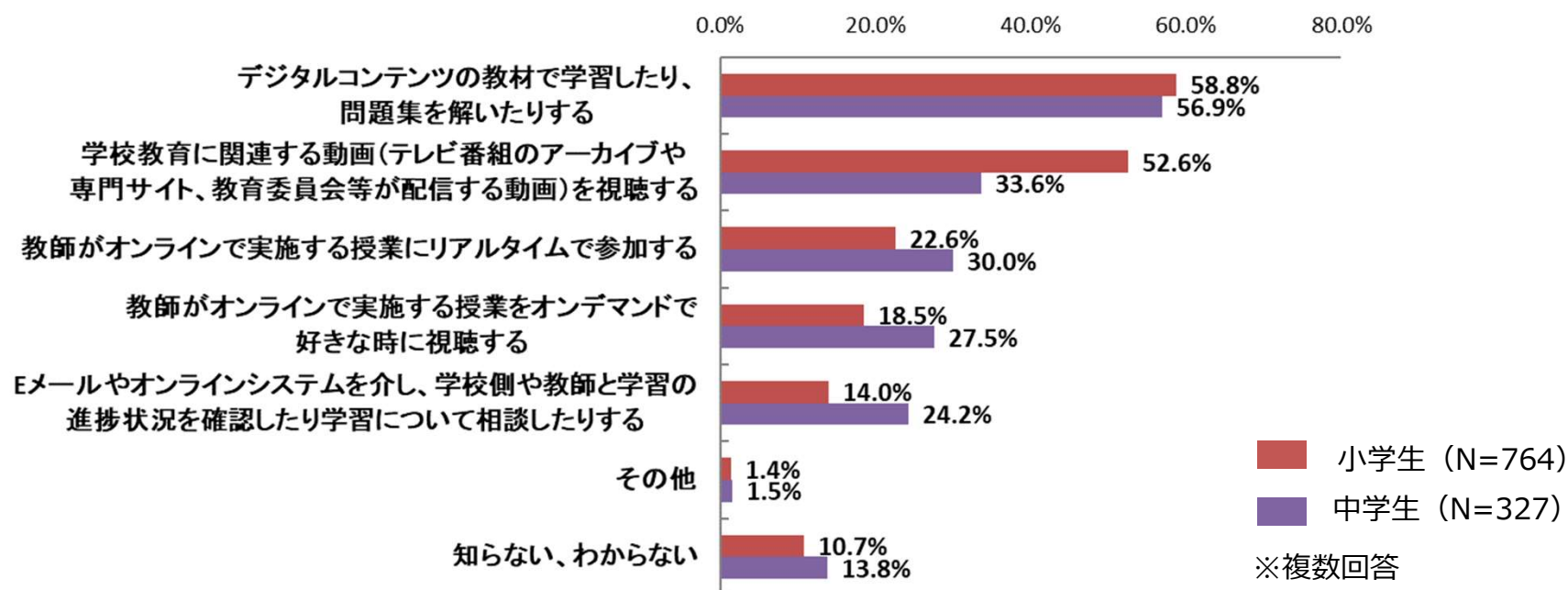
中学生（N=327）



■ ほぼ毎日 ■ 週4～5回 ■ 週2～3回 ■ 週1回 ■ 月に数回 ■ それ未満 ■ 実施していない ■ 知らない、わからない

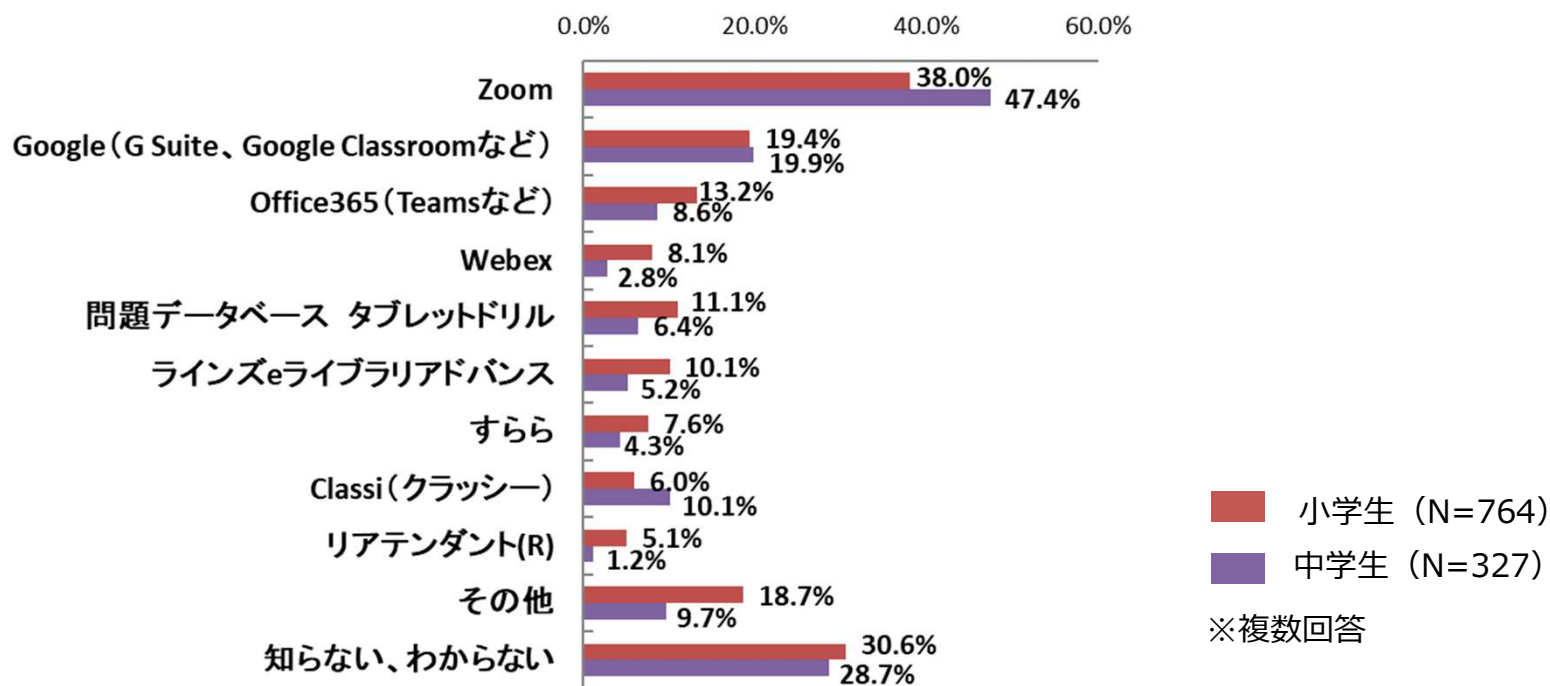
## 2 ICTを用いた学習の内容（実施経験のあるもの）

- 小学生・中学生ともに、実施経験のある学習内容で最も多いものはデジタルコンテンツ教材である。学校別にみると、小学生ではテレビ番組など既成の動画視聴、中学生では学校教師による授業にリアルタイムで参加する、オンデマンド配信を視聴する割合が増加する。



### 3 家庭で利用したことのあるICT学習ツール

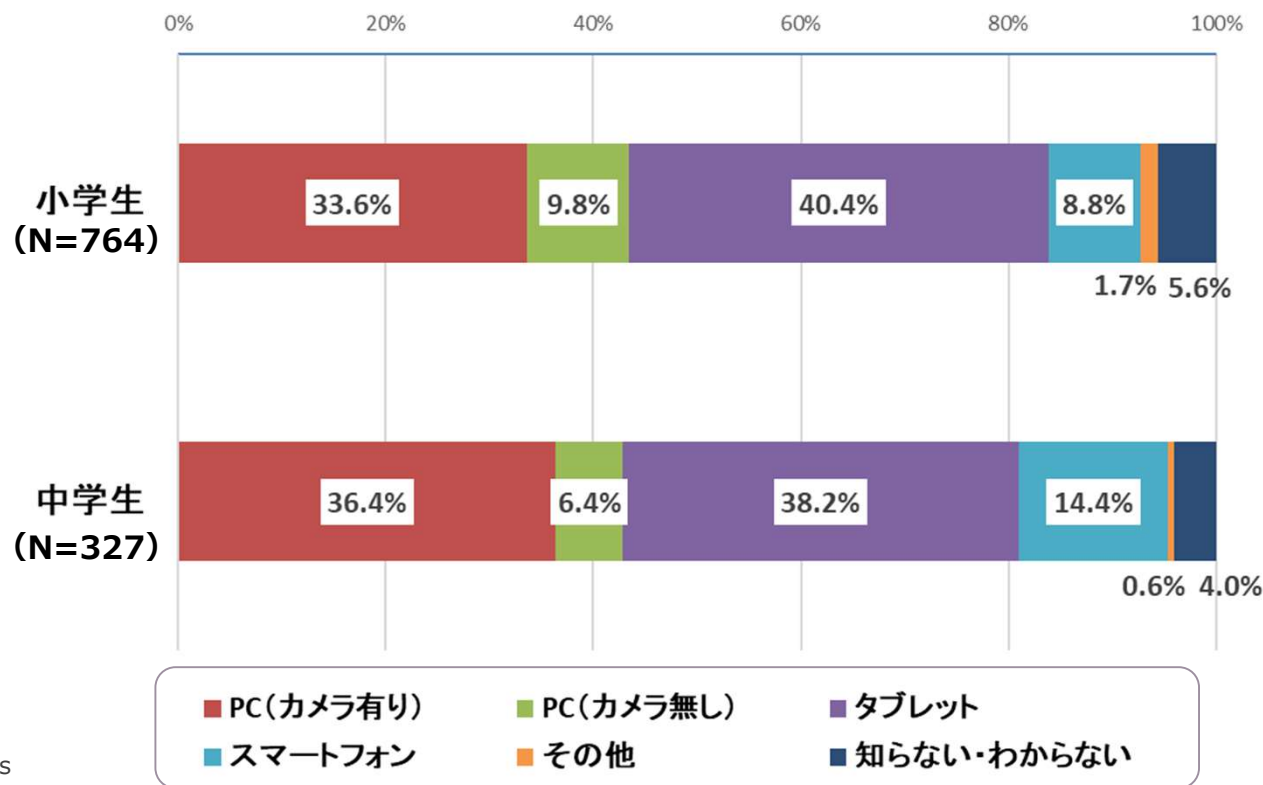
- ▶ 小学生・中学生ともに「Zoom」の利用率が最も高い。
- ▶ 「問題データベース タブレットドリル」「ラインズeライブラリアドバンス」「すらら」などデジタルコンテンツを提供するツールは、若干だが小学生の利用率が高くなっている。





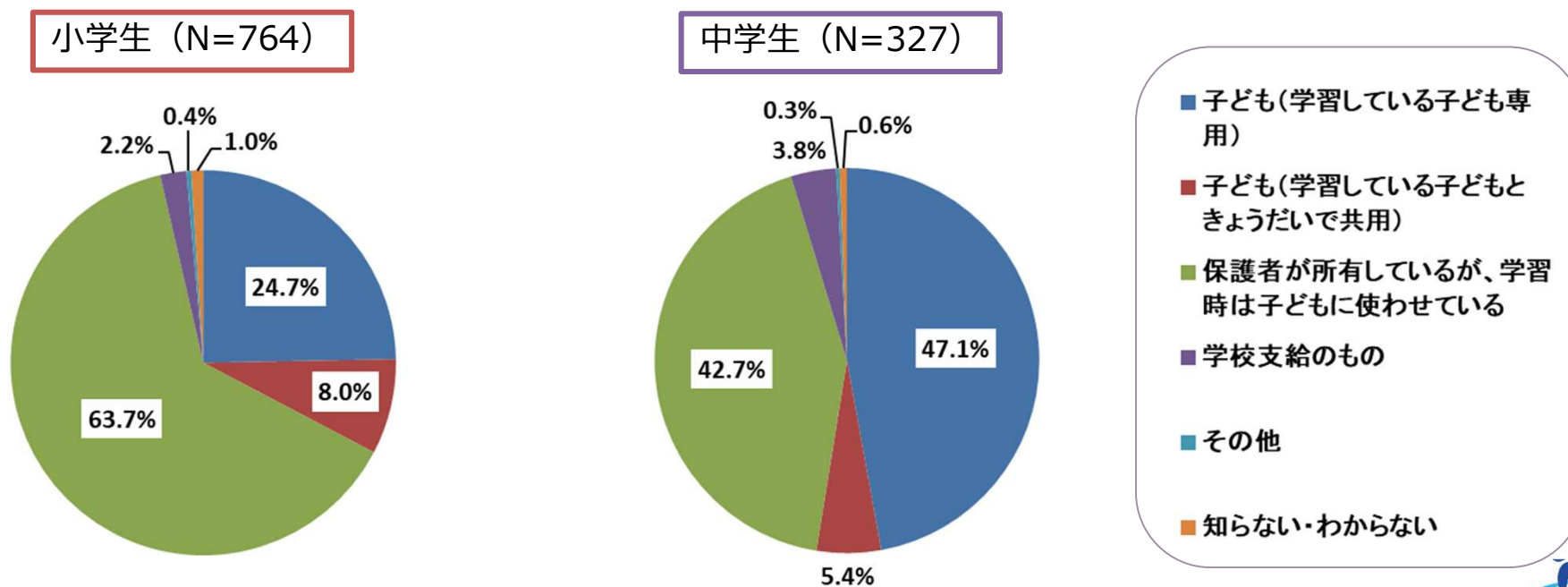
## 4 利用デバイスと通信環境

- 利用するデバイスはPC（カメラ有り／無し双方含む）が小学生43.4%、中学生42.8%、タブレットが小学生40.4%、中学生38.2%と拮抗している。中学生はスマートフォンの利用率も高くなっている。
- 通信環境は、双方ともに8割以上がWifiを利用していた。（小学生85.1%、中学生89.6%）



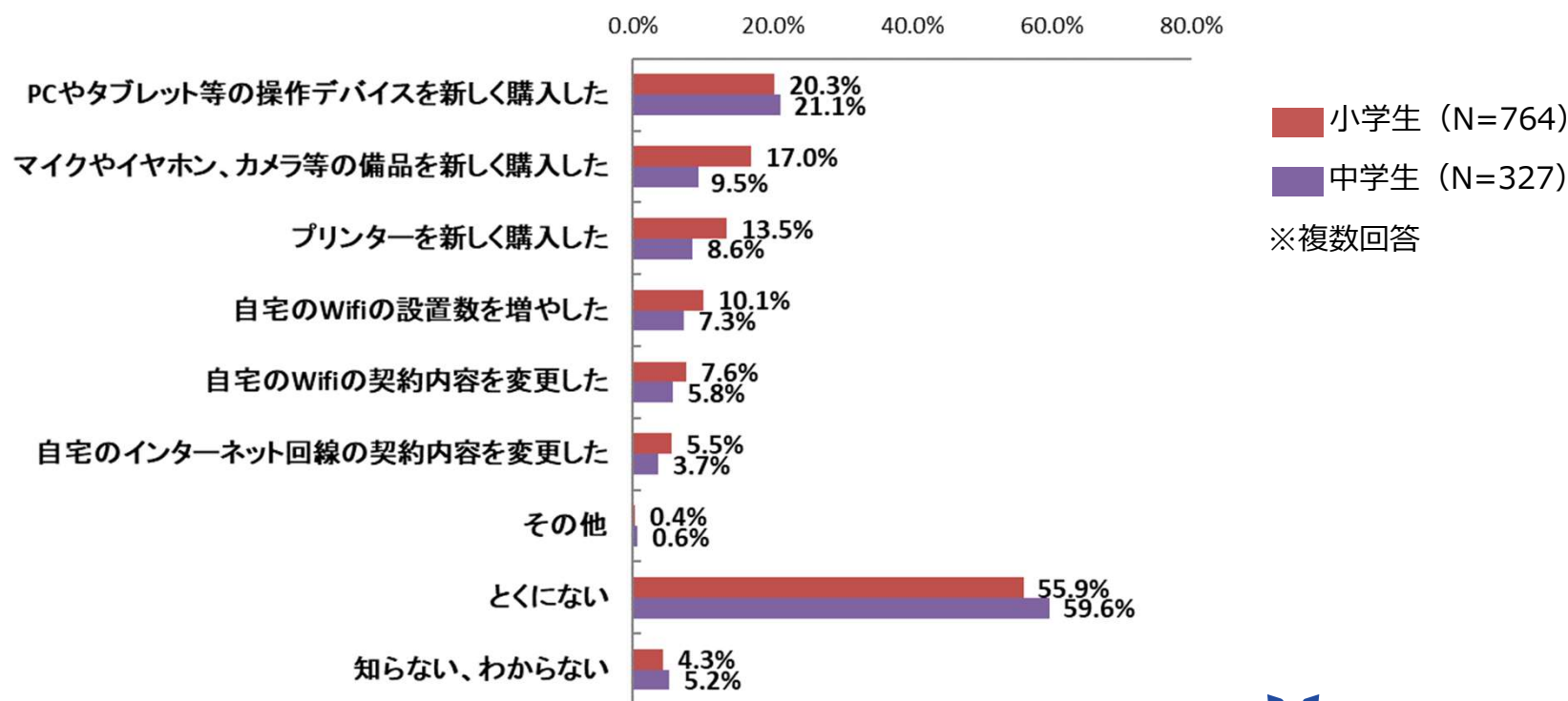
## 5 デバイスの所有者

- ▶ 小学生では保護者所有のデバイス子どもに使わせている割合が高いが（63.7%）、中学生になると子ども自身が所有するデバイスを使う割合が増える（47.1%）
- ▶ 学校支給のデバイスを利用している割合は、小学生2.2%、中学生3.8%とともに低い。



## 6 デバイスや通信環境の整備状況

- ICTを用いた学習環境の整備として家庭で実施したことは、小学生・中学生ともに「とくにない」の比率が高いものの、新しく家庭でPCやタブレットを購入した家庭も2割に達している。
- とくに小学生の家庭では、マイクやイヤホン等の備品やプリンターを購入した家庭もそれぞれ1割以上あり、ICT環境の整備が負担になったと推測される。

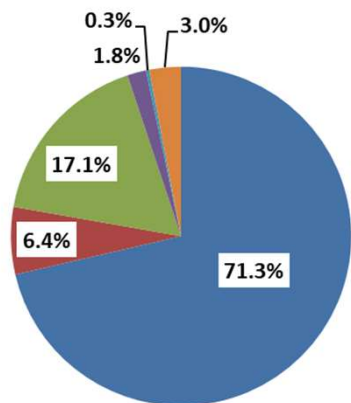


# 7 ICTを用いた家庭学習の環境（どこで・誰と）

- どこで：小学生・中学生ともに「リビング」が第一位であるが、中学生になると「子ども部屋」も42.2%に達している。
- 誰と：小学生では45.4%が母親と一緒に学習しているが、中学生になると61.1%が子どもだけで学習している。

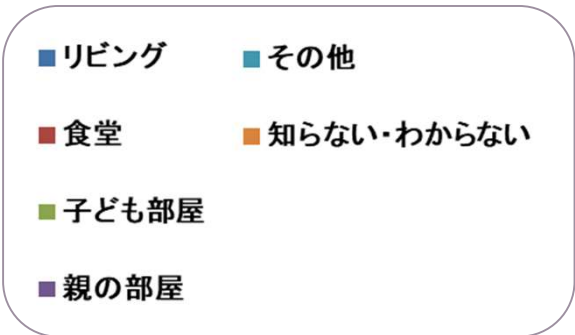
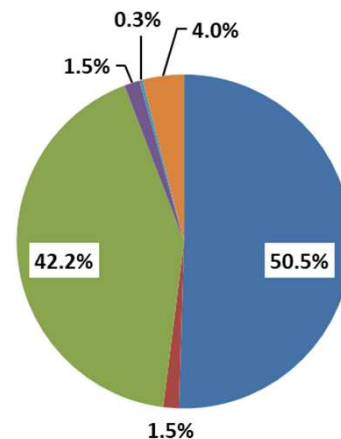
小学生  
(N=764)

どこで

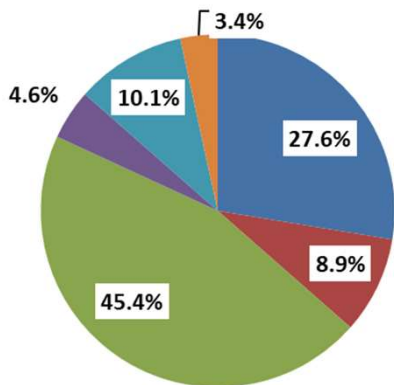


中学生  
(N=327)

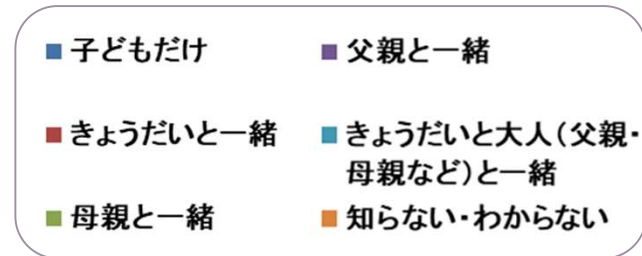
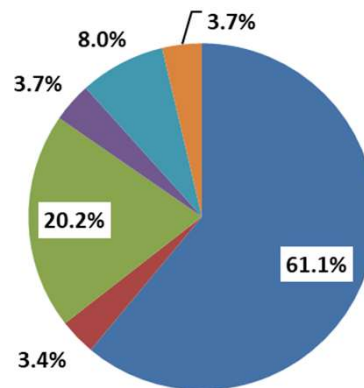
どこで



誰と

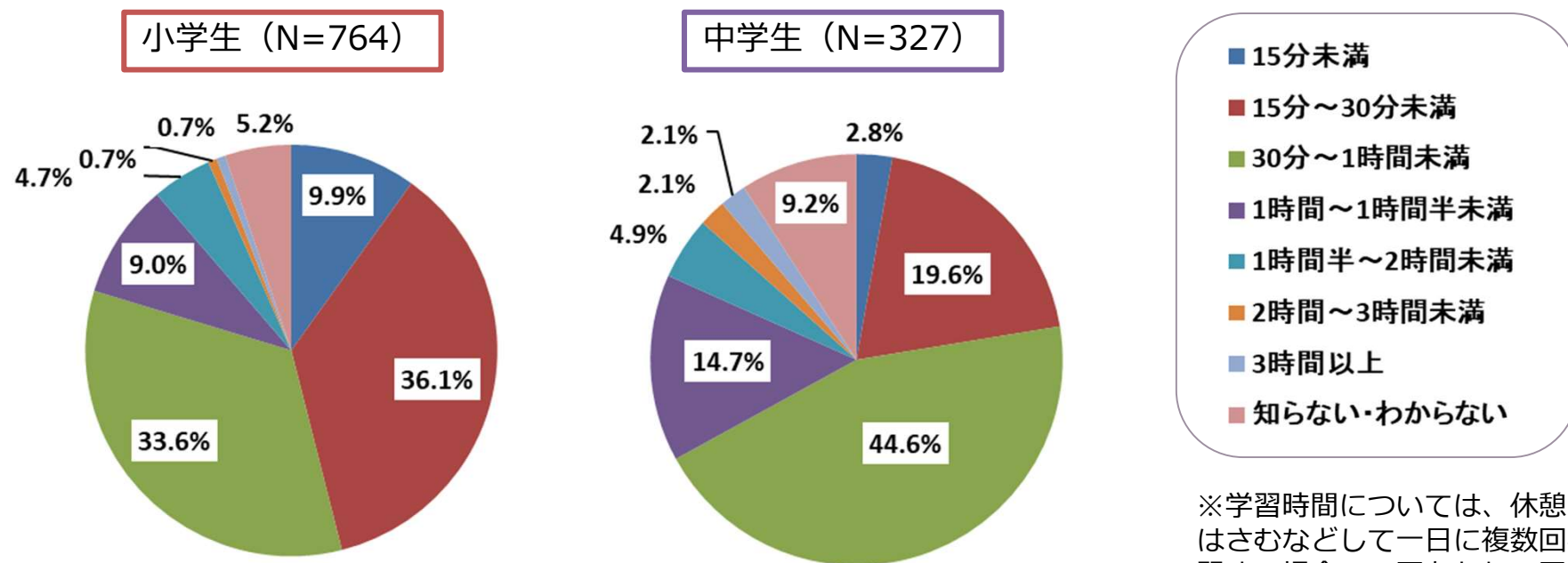


誰と



## 8 ICTを用いた家庭学習の環境（集中できる学習時間）

- 子どもが集中できる学習時間については、「15分未満」「15分～30分未満」が小学生で合計46%に達し短時間の傾向にあった。中学生では「30分以上1時間未満」が44.6%となり、対面での授業カリキュラムに近い時間であっても集中力が持続している。



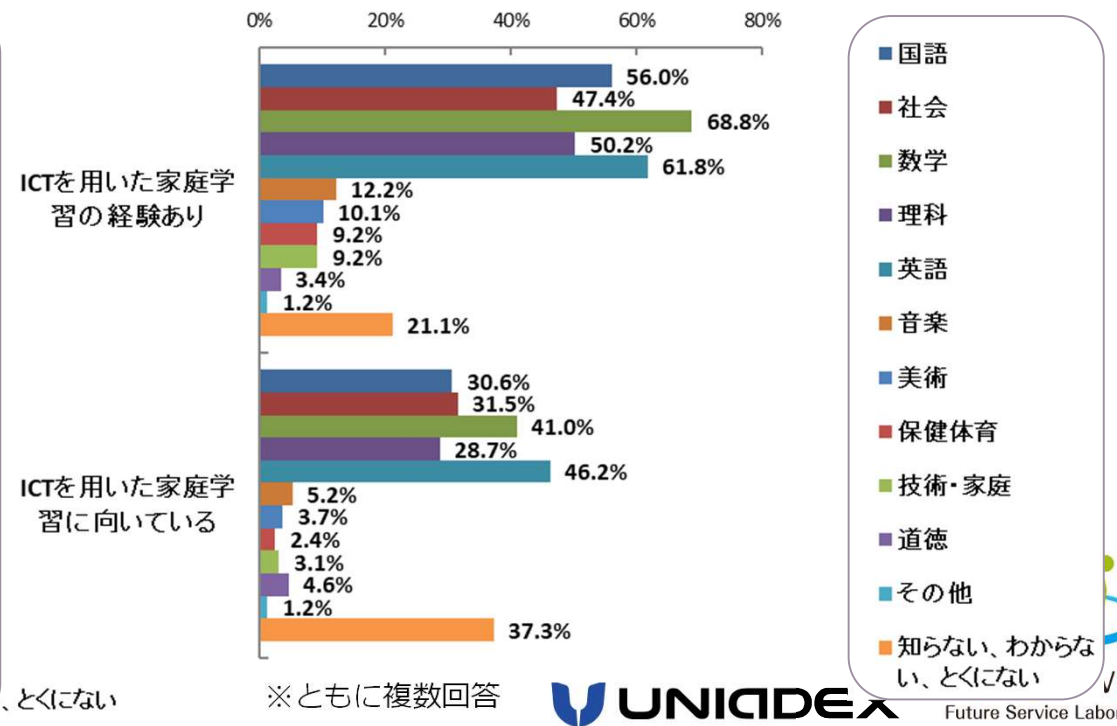
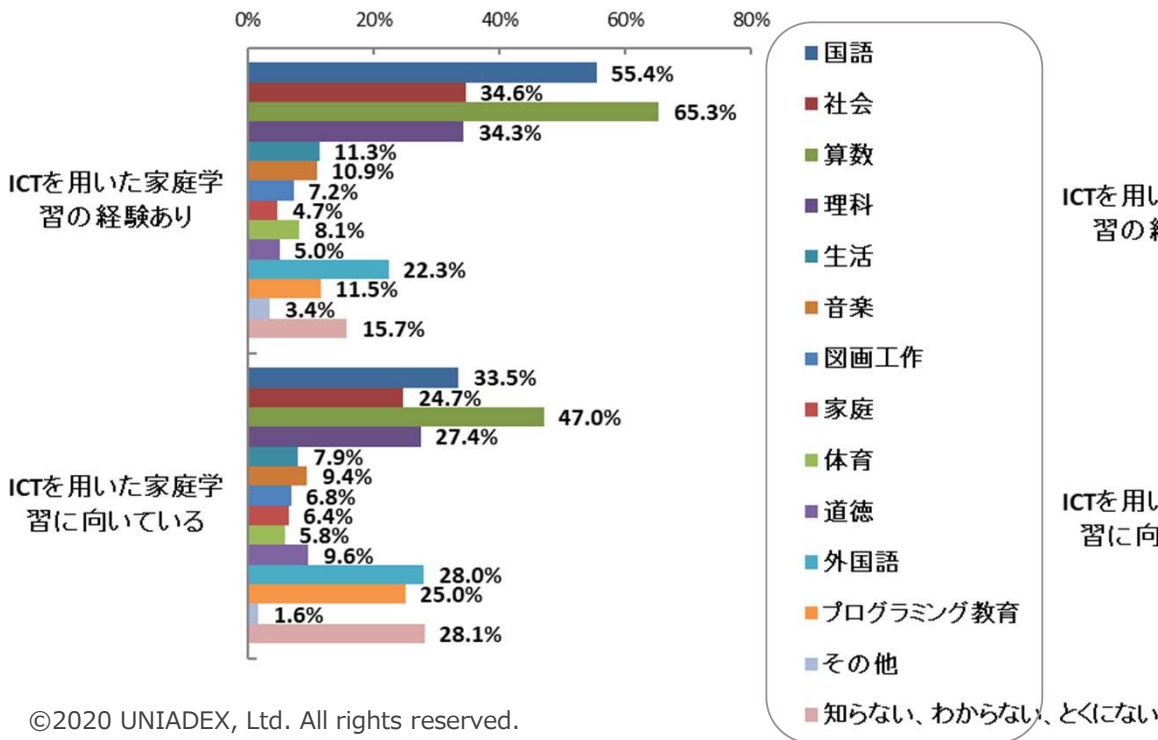
※学習時間については、休憩をはさむなどして一日に複数回学習する場合、一回あたりの平均的な時間を質問した。

## 9 ICTを用いた家庭学習と教科（学習経験の有無、向いていると思う教科）

- 小学生では算数が「ICTを用いた家庭学習の経験あり」「ICTを用いた家庭学習に向いていると思う」割合がもっとも高い。外国語とプログラミングも「向いている」の割合が高くなった。中学生では、数学と英語で「経験あり」「向いている」の割合が高い。

小学生 (N=764)

中学生 (N=327)



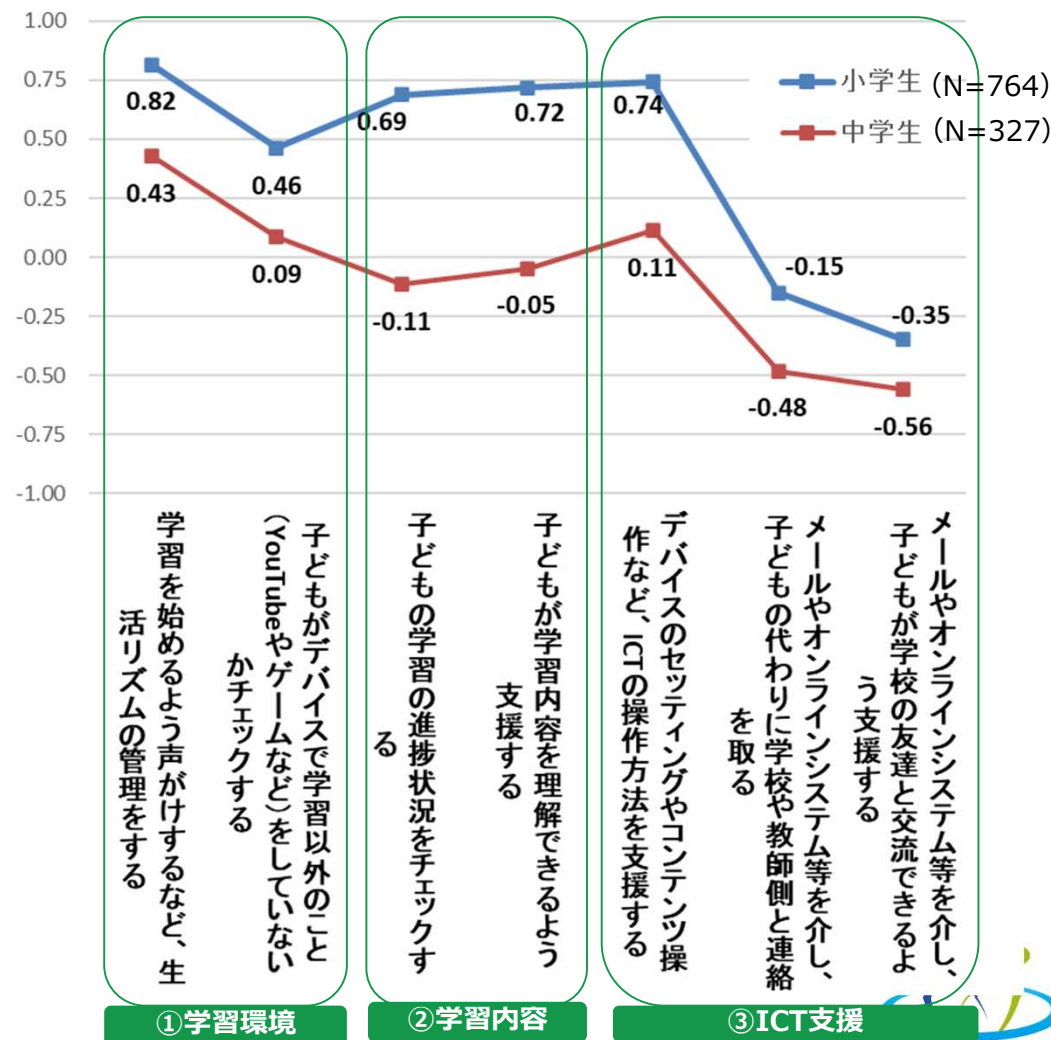
## 10.1 子どもの学習時に保護者が実施していること（小・中別）

➤ 以下の3領域について保護者の実施状況を質問し、回答から平均値を算出した※。

- ① **学習環境**に関わること：学習開始の声かけ、学習外のデバイス利用チェック
- ② **学習内容**に関わること：学習進捗状況チェック、学習内容理解の支援
- ③ **ICT支援**に関わること：デバイス・コンテンツ操作支援、メールやオンラインによるコミュニケーション支援

➤ 全体的に小学生の値が高い。また③ICTのなかでもコミュニケーション支援に関わる項目は、小学生・中学生ともに実施されない傾向にあった。

※各項目の回答に対する配点は以下の通り。  
 常にしている 2点  
 時々している 1点  
 どちらともいえない 0点  
 あまりしていない -1点  
 まったくしていない -2点

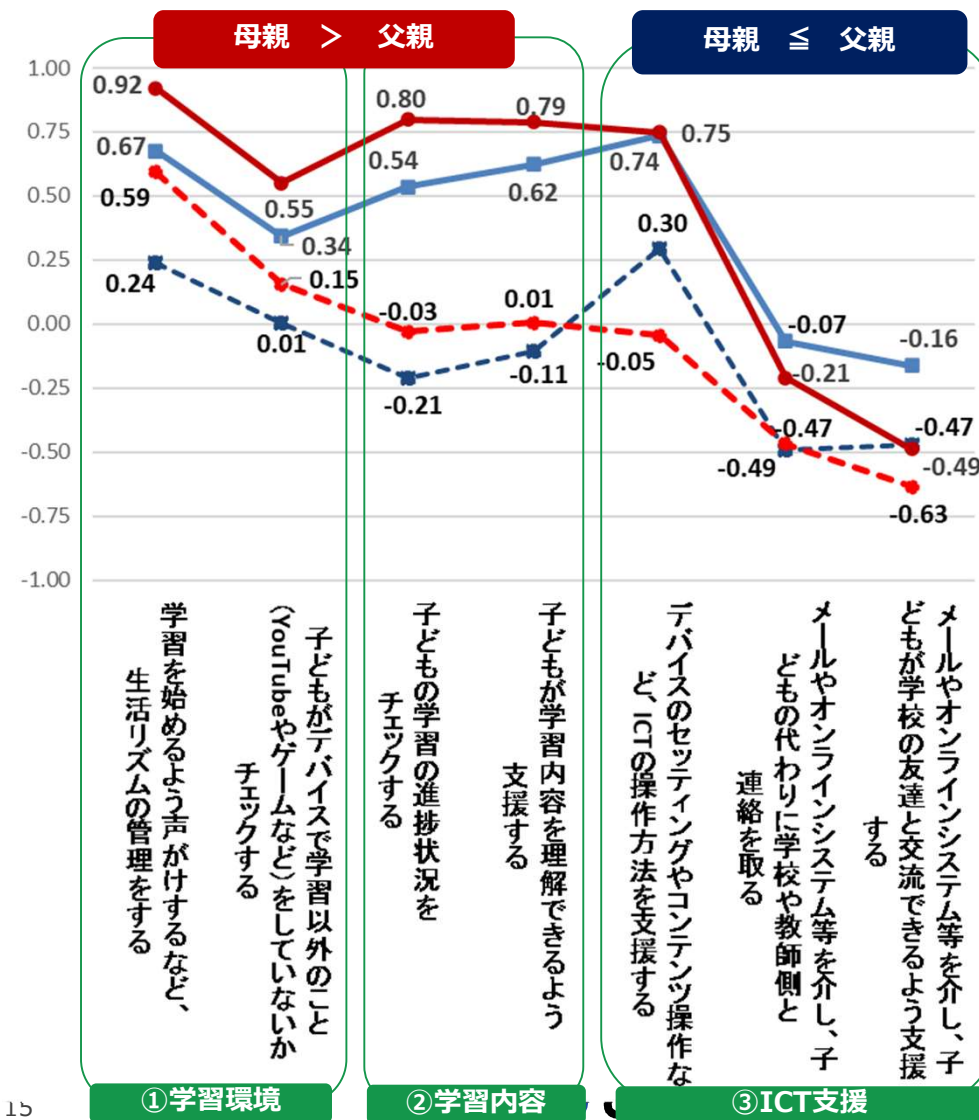


## 10.2 子どもの学習時に親が実施していること（父母別）

- 父親・母親別に分析すると値の傾向に違いがみられる。
- 母親は子どもの学習環境（「生活リズム管理」「学習以外の行動チェック」）、学習内容にかかわる行動（「学習進捗チェック」「学習理解支援」）の値が高いが、ICT支援（「操作支援」「コミュニケーション支援」）になると父親と母親の値が同等になるか、父親が逆転する。

※各項目の回答に対する配点は以下の通り。  
 常にしている 2点  
 時々している 1点  
 どちらともいえない 0点  
 あまりしていない -1点  
 まったくしていない -2点

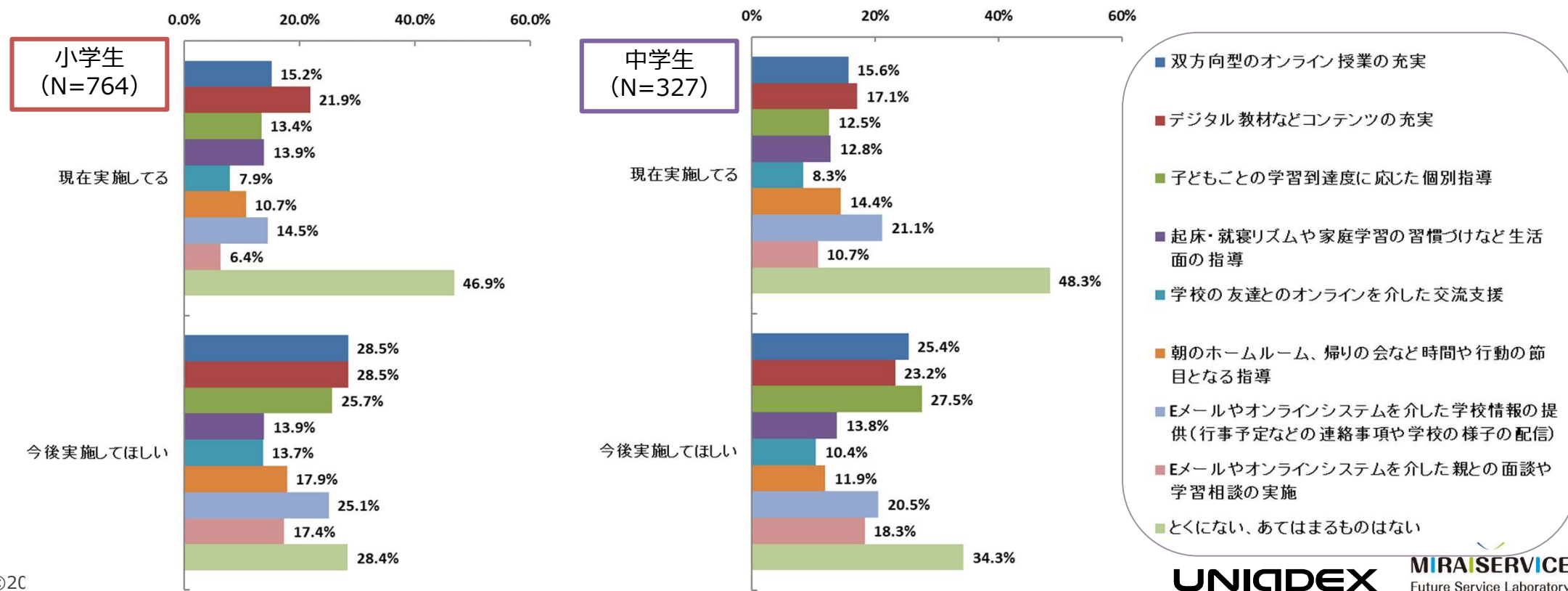
- 小学生父親 (N=326)
- 中学生父親 (N=152)
- 小学生母親 (N=438)
- 中学生母親 (N=175)





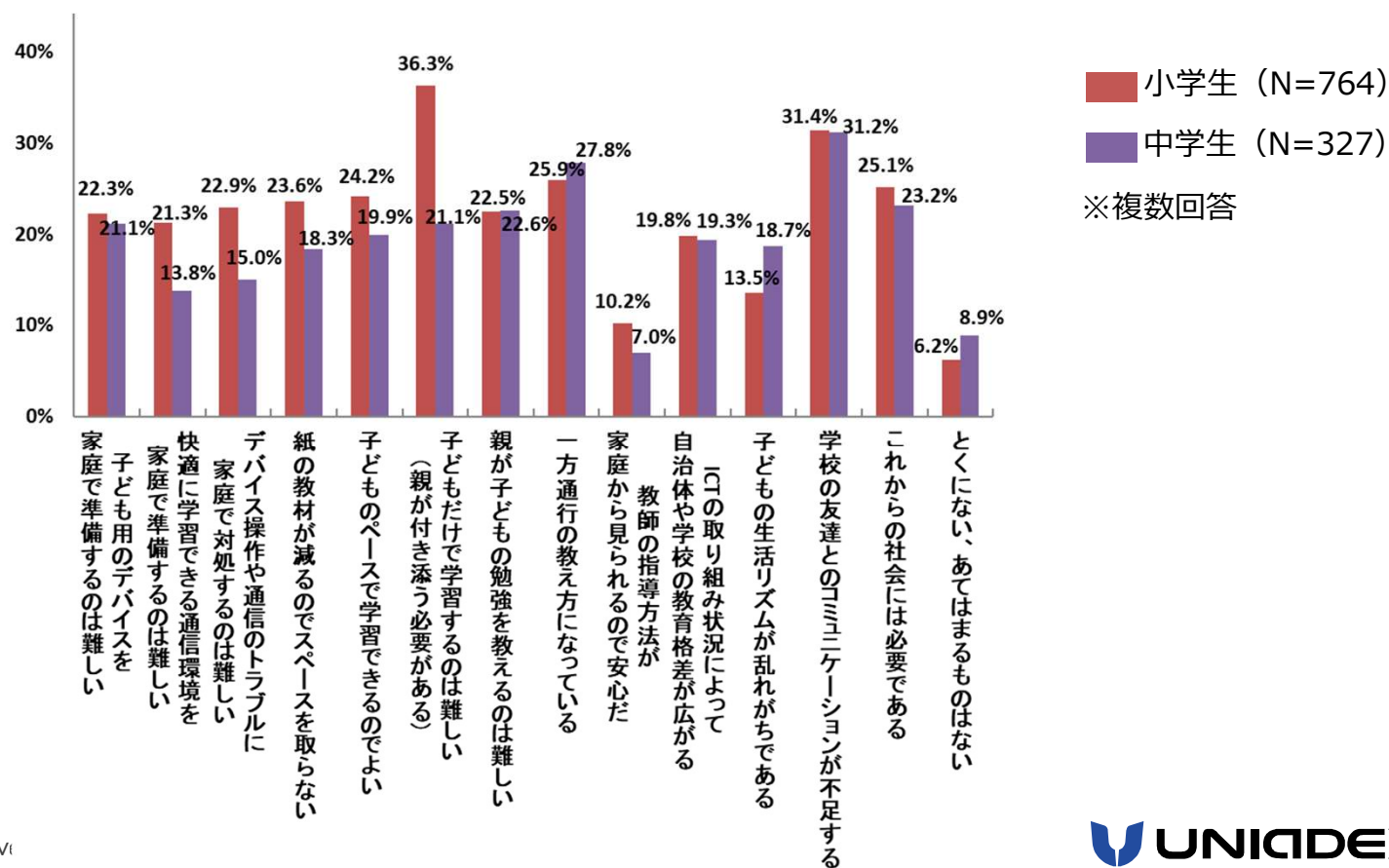
# 11 学校・教師側が実施していることと今後の要望

➤ 現在実施していることについては、対面型の授業が再開しているためか小学生・中学生ともに「とくにない」が4割強を占めた。今後実施してほしいことは、双方ともに「双方向型授業の充実」「デジタル教材の充実」「学習到達度に応じた個別指導」「学校情報の配信」と学習方法や内容の充実に対する要望が高くなっている。



## 12.1 家庭におけるICTを用いた学習への意見（小中別）

- 小・中ともに約3割の保護者が「学校の友達とのコミュニケーションが不足する」と感じている。また「子どもだけで学習するのは難しい（親が付き添う必要がある）」は、小学生保護者が中学生保護者の値を15.2%上回る結果となった。



## 12.2 家庭におけるICTを用いた学習への意見（父母別）

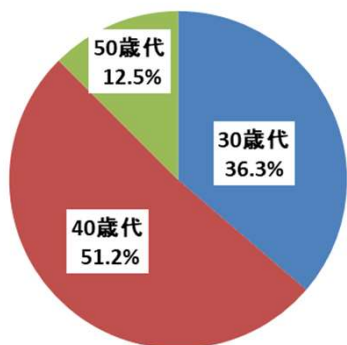
- ▶ 父親は「紙の教材が減るのでスペースを取らない」「これからの社会には必要である」というICTを用いた学習のメリットに関する意見で数値が高い。いっぽう母親は「子どもだけで学習するのは難しい（親が付き添う必要がある）」「親が子どもの勉強を教えるのは難しい」といった学習の仕方に対する意見の数値が高くなった。
- ▶ とくに小学生の母親では「子どもだけで学習するのは難しい」の値が高く、家庭で子どもの勉強を見ることが負担になっていることがうかがえる。

	子ども用のデバイスで家庭で準備するのは難しい	快適に学習できる通信環境を家庭で準備するのは難しい	デバイス操作や通信のトラブルに家庭で対処するのは難しい	紙の教材が減るのでスペースを取らない	子どものペースで学習できるのよい	子どもだけで学習するのは難しい（親が付き添う必要がある）	親が子どもの勉強を教えるのは難しい	一方通行の教え方になっている	教師の指導方法が家庭から見られるので安心だ	ICTの取り組み状況によって、自治体や学校の教育格差が広がる	子どもの生活リズムが乱れがちである	学校の友達とのコミュニケーションが不足する	これからの社会には必要である	とくにない、あてはまるものはない
父親(合計) N=478	21.8%	19.7%	18.6%	<b>24.9%</b>	24.5%	27.8%	17.4%	25.9%	7.3%	20.3%	12.3%	31.0%	<b>26.8%</b>	8.8%
母親(合計) N=613	22.0%	18.6%	22.0%	19.7%	21.7%	<b>34.7%</b>	<b>26.6%</b>	26.9%	10.8%	19.1%	17.1%	31.6%	22.8%	5.5%
小学生(父親) N=326	20.9%	22.1%	19.9%	26.4%	26.7%	31.0%	17.2%	25.8%	8.6%	20.2%	11.7%	30.4%	26.7%	6.1%
小学生(母親) N=438	23.3%	20.8%	25.1%	21.5%	22.4%	40.2%	26.5%	26.0%	11.4%	19.4%	14.8%	32.2%	24.0%	6.2%
中学生(父親) N=152	23.7%	14.5%	15.8%	21.7%	19.7%	21.1%	17.8%	26.3%	4.6%	20.4%	13.8%	32.2%	27.0%	14.5%
中学生(母親) N=175	18.9%	13.1%	14.3%	15.4%	20.0%	21.1%	26.9%	29.1%	9.1%	18.3%	22.9%	30.3%	20.0%	4.0%

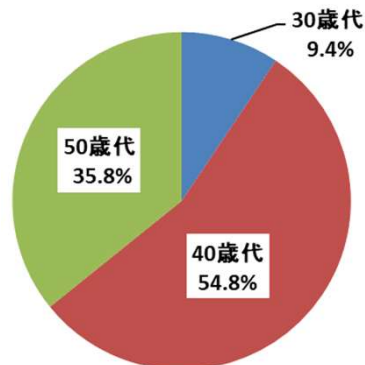
# 調査対象者について（参考）

年代

小学生保護者

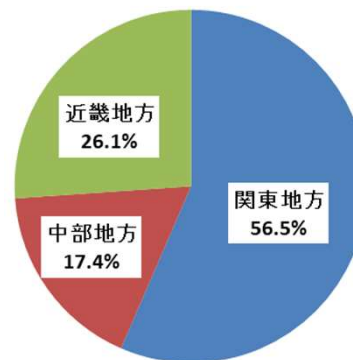


中学生保護者

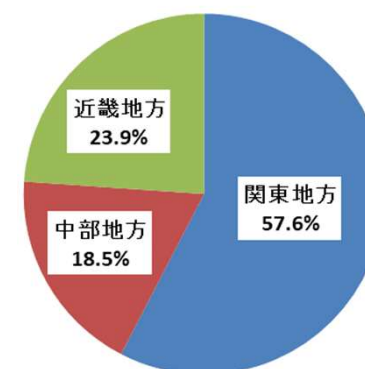


居住地

小学生保護者



中学生保護者



子どもについて

学年

学年	小学校 1年生	小学校 2年生	小学校 3年生	小学校 4年生	小学校 5年生	小学校 6年生	中学校 1年生	中学校 2年生	中学校 3年生
合計	110	125	166	118	123	122	111	107	109

性別

性別	小学生 男子	小学生 女子	中学生 男子	中学生 女子	男子 小計	女子 小計
合計	424	340	153	174	577	514

学校  
(公立/私立)

学校	公立	私立	その他	小学生計	公立	私立	その他	中学生計	公立	私立	その他
小学生計	675	83	6	764	232	93	2	327	232	93	2
	88.4%	10.9%	0.8%	100.0%	70.9%	28.4%	0.6%	100.0%	70.9%	28.4%	0.6%

【居住地域の都道府県区分】

- ・ 関東地方  
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 中部地方  
新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県
- ・ 近畿地方  
三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県



<https://www.uniadex.co.jp/approach/mirai/>  
※本調査結果を引用いただく際は出所の明記をお願いいたします。